

田原城の石垣 (二)

桜門の石垣を見てみましょう。左右で石垣の組み方が違うことが分かります。右側の石垣は多角形の石を巧みに組み合わせ、すき間無く積まれています。一方、左側の石垣はブロックやレンガを積むように、石の上面と下面が水平になるように目地を通して積まれています。うまく座らない石は小さな石で固定されています。さて、この積み方が違う原因は、一体何でしょうか。

一つは、石垣が積まれた時代差によるものです。もう一つは、桜門の右方向に視線を向けさせるためのデザイン上の工夫でしょう。

時代差で考えてみると、加工が施された石を利用する右側の石積みは、左側のそれより新しい方法です。

デザインの面については、右側の石垣の隅は、半分の高さまで縦長の石で組まれていて、石の形も含めて幾何学的なデザインです。また、門の裏側にも縦長の石があります。水堀（通称袖池）の構造もそうですが、桜門の右側に城を見せる工夫が注がれていたようです。

田原城の石垣は、この地域で採れる



●桜門右側の石垣



●桜門左側の石垣

チャートと呼ばれる石材を主に使用しています。この石材は花崗岩などと異なり、粘りが無く加工に適しています。成章高校の西側には「石取下」と呼ばれる地名があり、文字通り田原城の石を採取した場所と伝えられています。従って、築城当初は自然石で手頃に採取できるこの石材を利用したのでしょう。

ところが、新しい時代になると、少しでも簡単に丈夫に積めるように形の整った石が選ばれるようになりました。

また、石不足が生じたためでしょうか、新しい時代の石垣には、一部に花崗岩・石灰岩・笠山周辺の石が使用されています。

なお、三の丸側の水堀をよく見ると、場所によって規格化した石と、さまざまな石で積んだ石垣があることが分かります。これは石垣の修理が行われたことを示しています。

石垣が一般の城にも使用されるようになったのは、織田信長の安土城建設以後のことです。しかし、最近の研究によれば、田原城に残っている石垣はこの時期のものではなく、その積み方の様式から江戸時代に築かれたものようです。ちなみに、一番古そうな石垣は、桜門の下、袖池の最下段にある石垣だそうです。



●田原城で最も古い石垣（下側）

▽田原町博物館 222局1720

今月の表紙 COVER STORY

街をドレスアップするイルミネーション。私たちの日常生活に「潤い」を与えてくれる名脇役として欠かすことができません▼地球温暖化防止が叫ばれている現在、様々な分野で省資源・省エネルギーの取り組みがなされています。電気の節約もその一つですが、もしも世の中の電気使用量を半分に減らさなければならぬとしたら、どうなるでしょう？「衣・食・住」に直接関係のない街のイルミネーションは、きつと真つ先に消えてしまうことでしょう▼しかし、あなたに「潤い」を与えてくれるものの多くは、こうした社会的に「過剰」なものではありませんか？「いつまでも、この潤いを」、それだけでも地球温暖化防止に取り組み動機になると思いませんか？▼過剰なものを残すために節約する。「豊かな文化」とは、そういうものなのかもしれません。（写真・12月のはなとき通りではイルミネーションが毎日楽しめられます。）

【人口と世帯数】

総人口	36,877人	
男性	18,830人	
女性	18,047人	
世帯数	11,565世帯	
出生	26人	死亡 13人
転入	96人	転出 107人
増減	2人	

(平成14年11月1日現在・増減は10月中)

【行政面積】 82.86 km²

(平成11年10月1日現在・国土地理院調べ)